

県副知事との懇談実施概要

日	時	平成19年2月6日(火) 9時30分～10時15分
場	所	新潟県庁 副知事室
参 加 者		ー委員ー 新野会長・渡辺(丈)副会長 ー新潟県ー 小熊副知事 鶴巻危機管理監 松岡原子力安全対策課長 ー事務局ー 広報センター 押見事務局長

◆ 懇談内容

➤ 地域の会について

副知事：地域の会が今日まで継続していることの秘訣は何か。

↓

会 長：各委員やオブザーバーに支えられ運営している。

ファシリテータの役割をこなす専門家が入っていなかったことが、結果的にはよかったのではないかと。委員それぞれ、24分の1の責任を果たそうとする自負が自然に備わってきていると思う。

特にタイムリーなテーマが無いときほど運営は難しく、委員からの要望を参考にしながら運営委員会で議論を重ね、運営しているのが現状である。

課 長：推進、反対の立場からの発言が多い中、中立的考えの委員からの発言の機会を作るなど、進め方が会の存続にも繋がっているのではないかと。

危機管理監：反対・推進の委員が会を抜けることなく続いていることは、会長・副会長の運営のうまさにあると思う。

副知事：考えの違う双方が、お互い理解しにくい部分があったとしても、尊重しあうことが大切であり、地域の会はまさにそれを実践している。

➤ 運営について

副会長：発足当初は推進・反対双方の対立、不信感が強く、会長・副会長を決められる状況ではなかった。

会 長：発足1年目は、反対・推進の委員間での意見の応酬が激しく、中立的な立場の委員が発言しにくい状況があった。

紆余曲折はあったが、推進派・反対派の委員同士がコミュニケーションを取れるようになった。ただ、推進の立場として重要な団体だと考えている、商工会議所推薦の委員が抜けていることは残念なこと。参加していただくことを希望している。

副知事：とにかく、行政に対する批判に終始し、行政側はその弁明ということになりがち。地域の会では、建設的な意見や提言等が積極的に出され、すばらしい運営がなされている。

定例会等の議論だけでなく、著名な方を招請しての講演会や勉強会などを開催していることに、感銘した。

➤ 会の今後について

会 長：東京電力(株)の今回のデータ改ざん問題は、国民を再び裏切る行為であり、地域の会としても非常に残念。地域の会を良い意味で立ち直りに利用して欲しいと思っている。一般住民の立場からの監視という意味からも、地域の会の役割は今後も重要と考えている。

副知事：原発問題は、なかなか目に見えない難しい問題。地域住民にとって、地域の会は非常に重要だと考える。県としては、今後も地域の会を応援し、東京電力(株)や国に対しては的確に対応していきたい。

➤ その他

副知事：会の運営等で、県に対して要望はないか。

↓

会 長：県の技術委員会は公開されているようだが、地域の会がもっと参考にできるような関わりが持てないものか。

危機管理監：技術委員会は毎回全て公開しているので、是非傍聴してもらいたい。今後については、開催日や議題を事前に連絡し、内容の報告もしていきたい。